

年代	出来事	運営主体
昭和15年 (1940)	和鋼記念館建設計画 発足	(株)日立製作所安来工場 (現・(株)プロテリアル 安来工場)
昭和21年 (1946)	和鋼記念館 開館	(株)日立製作所安来工場 (現・(株)プロテリアル 安来工場)
昭和62年 (1987)	鉄の道文化圏推進協議会 発足	安来市、広瀬町、横田町、大東町、仁多町、吉田村
平成5年 (1993)	和鋼博物館 開館	安来市
平成15年 (2003)	大規模改修 ・展示室2→企画展示室 ・企画展示室→俵記念室 等	安来市
平成16年 (2004)	10月1日、1市2町の合併により 新「安来市」誕生	安来市
平成16年 (2004)	安来市立図書館(やすぎ図書館) 隣接地に移転、新築開館	安来市
平成28年 (2016)	「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」日本遺産認定	安来市、雲南市、奥出雲町

日本遺産とは

我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていくことが必要です。

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援します。

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財(文化遺産)の価値付けを行い、保護を担保することを目的とするものです。一方で日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている点に違いがあります。引用：日本遺産とは | 日本遺産ポータルサイト (bunka.go.jp)

## オ 開館当時の和鋼博物館の役割

### 1 事業目標

「地域の博物館。それは、そこに住む人が週末ごとに行きたくなるような博物館。」

- ・たたら製鉄や鉄、安来の町を紹介する。
- ・市民の趣味や文化の創作活動、学習の拠点。市民の活動を応援。かつて、安来港に人や物が行き交ったように、和鋼博物館は文化活動や学習の拠点、交流の場となる「文化の港」を目指す。



図 1-33 やすぎ刃物まつり

### 2 和鋼博物館の役割

#### ●たたら製鉄の展示、調査研究、学習拠点

- ・たたら製鉄とその歴史・流通、匠技を広く紹介するとともに、和鋼記念館のたたら製鉄、和鋼の調査・研究に関する業績を引き継ぎ、発展させることを目的とする。
- ・鉄の生産技術や開発の歴史、生活の中の鉄など、様々な角度から鉄と人間の関わりについて、楽しく見て、考えることができる施設。

#### ●鉄の道文化圏の中心施設

- ・鉄に関する総合的な資料展示。
- ・1市4町1村が互いに分担と連携の関係を保ち、地域全体の魅力を高める上で、6つの文化館を関連付けてつなぐ、中心的な施設。
- ・立地を活かして、鉄の道文化圏の出入口となる。

#### ●市民の文化や創作活動、学習の拠点

- ・たたら製鉄や鉄、安来の町を紹介する。
- ・市民の趣味や文化の創作活動、学習の拠点。市民の活動を応援。



図 1-34 やすぎ刃物まつり

## カ 所在地と建築概要

所在地	〒692-0011 島根県安来市安来町 1058
竣工	平成5(1993)年4月
設計	宮脇檀建築研究室
敷地面積	16,865m <sup>2</sup>
建築面積	2,334m <sup>2</sup>
延床面積	3,148m <sup>2</sup>
構造規模	鉄筋コンクリート、鉄骨造2階建
駐車場	普通車 80台

## キ 利用者（入館者数推移など）

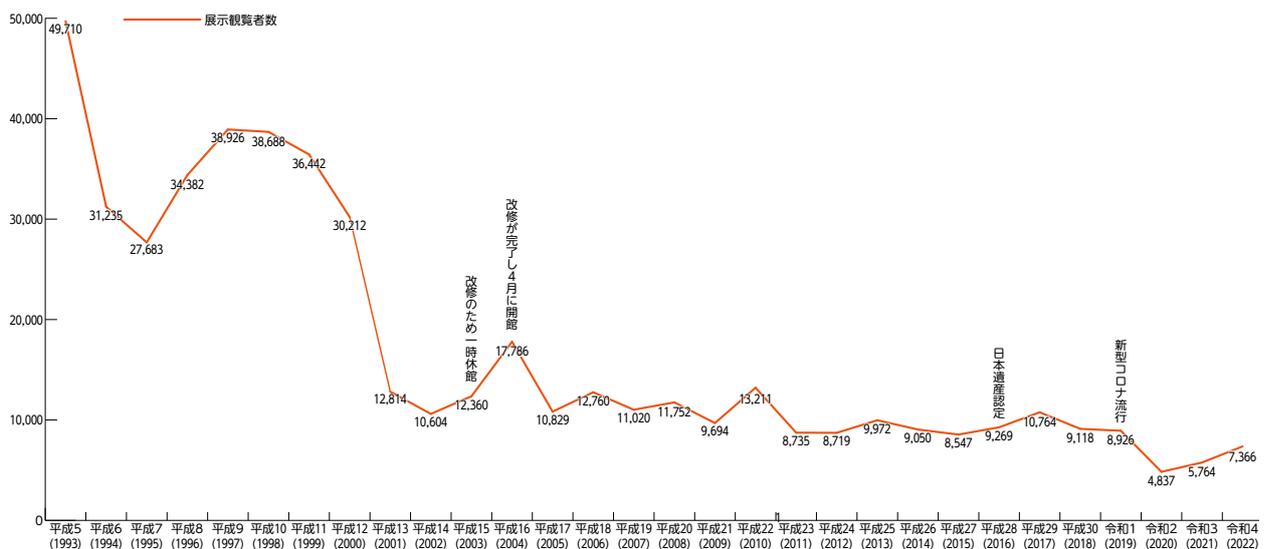


図 1-35 和鋼博物館の入館者数推移（観覧者数）

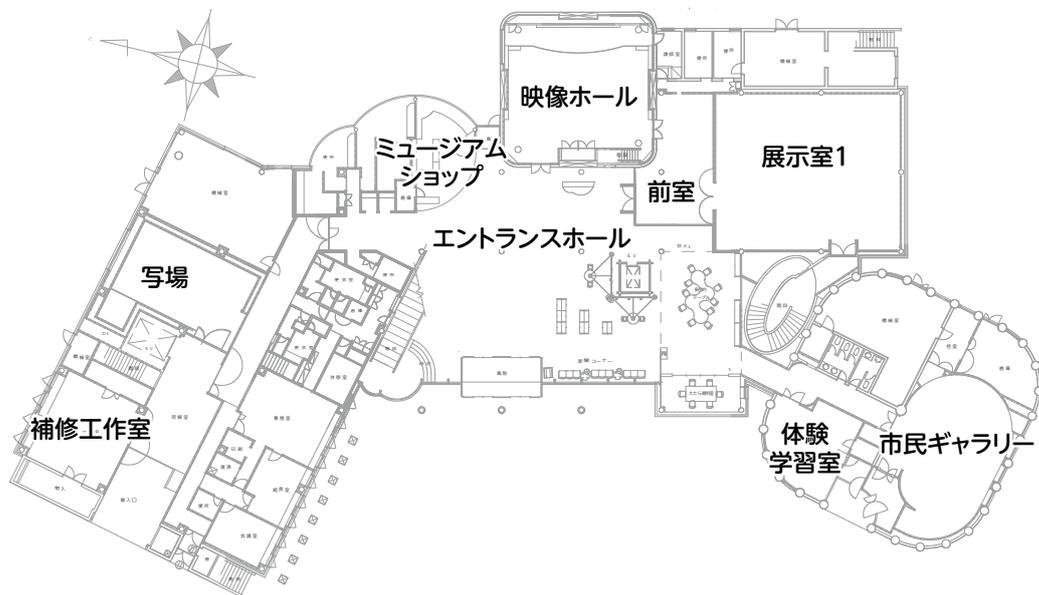
## 入館者数推移の見方

- 平成8(1996)年から平成12(2000)年までは、やすぎ刃物まつりの来場者を合算した数値である。やすぎ刃物まつり平均入館者数 20,000人程度
- 平成14(2002)年から現在までは、企画展入館者数の集計あり（以下、多いものから3件）
  - 平成16(2004)年「やなせたかし原画展～おいでよアンパンマンの世界へ～」7,934人
  - 平成18(2006)年「河井寛次郎 ふるさと安来の名品展～没後40年未公開作品展～」3,984人
  - 平成22(2010)年「生誕120年記念 歓喜の人 河井寛次郎」4,408人
- 平成25(2013)年には、中国横断自動車道尾道松江線の三次～松江間の開通と出雲大社遷宮の影響により、県内全体で旅行者数の上昇がみられた。

**ク 施設構成** 各スペースの現況写真は、参考資料 (p.77) に掲載しています。

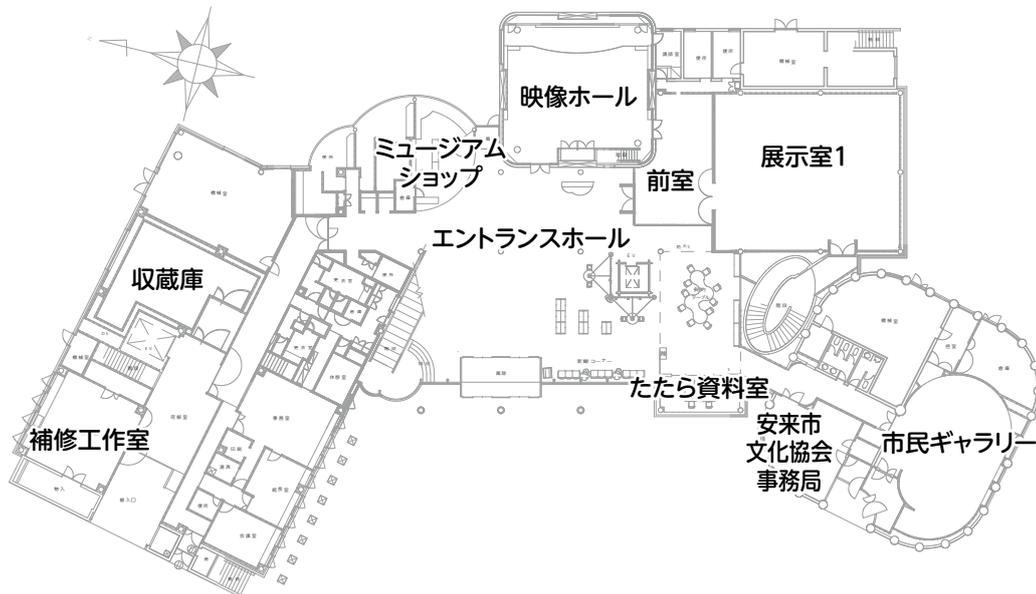
**【開館当時】**

フロア名称		機能・展示物
1階	エントランスホール	受付
		鉄の道文化圏 (6市町村) の紹介
		・映像コンテンツ 「鉄の道文化圏」
		【展示物】 地形模型
	ミュージアムショップ	ヤスキハガネ製刃物の販売
		・有限会社守谷宗光 (テナント)
	市民ギャラリー	貸出施設
		・絵画や書道などの展示会
	体験学習室	貸出施設
		・工作などの体験学習に利用
	映像ホール	貸出施設、230インチスクリーン (106席)
		・映像コンテンツ (ハイビジョン映像)
		【大人用】「炎と玉鋼」 【子供用】「たたらのおろち」
	前室	常設展示「よみがえる古代大刀」
・安来における鉄の歴史の始まり		
【展示物】 復元古代大刀1振、短甲		
展示室1	常設展示「鉄の歴史と永代たたら時代」	
	・たたらの技と道具	
	【展示物】 天秤ふいご、たねすき、炭取りなど (国重要有形民俗文化財を中心として)	
	【模 型】 砂鉄採取、古代の製鉄炉、たたら地下構造、高殿など	
	・映像コンテンツ (VHS)	
	「けらをつくる」 「砂鉄の採取」 「たたら地下構造」	
補修工作室	貸出施設	
	・工作や講習会などに利用	
写場	写真撮影場所	



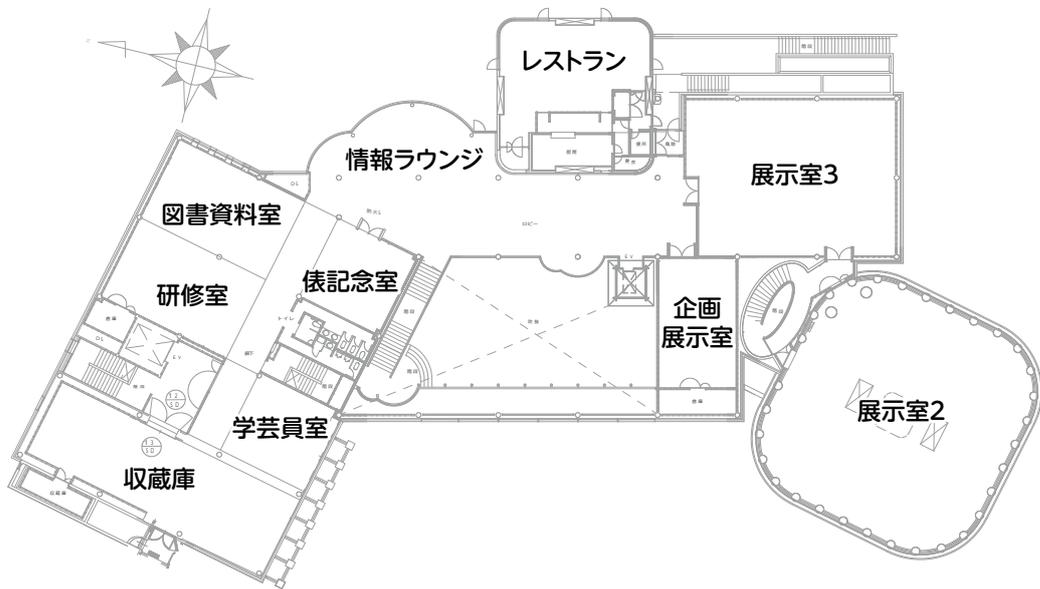
【現在】 **新** は、新規。 **改** は、仕様の改変が行われたものです。

フロア名称		機能・展示物	
1階	エントランスホール	受付	
		鉄の道文化圏（3市町）の紹介	
		<b>新</b> 常設展示室への誘導	
		・映像コンテンツ 「炎と玉鋼」	
		・体験展示（天秤ふいご、踏ふいご）	
		<b>新</b> 常設展示「古代たたら復元操業」 【展示物】 砂鉄・炭・玉鋼・鋳	
	たたら資料室	<b>新</b> 図書閲覧スペース	
	ミュージアムショップ	ヤスキハガネ製刃物の販売 ・有限会社守谷宗光（テナント）	
	市民ギャラリー	貸出施設 ・絵画や書道などの展示会（安来市文化協会が優先的に利用）	
	体験学習室	<b>新</b> 安来市文化協会事務局 事務所 貸出施設、230インチスクリーン（106席）	
	映像ホール	<b>改</b> 映像コンテンツ（DVD） 【大人用】「炎と玉鋼」 【子供用】「たたらのおろち」	
	前室	<b>改</b> 常設展示「よみがえる古代大刀」 ・安来における鉄の歴史の始まり（市内鉄関連遺跡の紹介） 【展示物】 復元古代大刀2振	
	展示室1	常設展示「鉄の歴史と永代たたら時代」 ・たたら技術と道具 【展示物】 天秤ふいご、たねすき、炭取りなど（国重要有形民俗文化財を中心として）	
		<b>新</b> 【展示物】 金屋子神社勧進帳 【模型】 砂鉄採取、古代の製鉄炉、たたら地下構造、高殿など	
		<b>改</b> 映像コンテンツ（DVD） 「けらをつくる」 「砂鉄の採取」 「たたら地下構造」	
		補修工作室	貸出施設 ・工作や講習会などに利用
		収蔵庫	<b>新</b> 収蔵施設 ・各種資料を収蔵



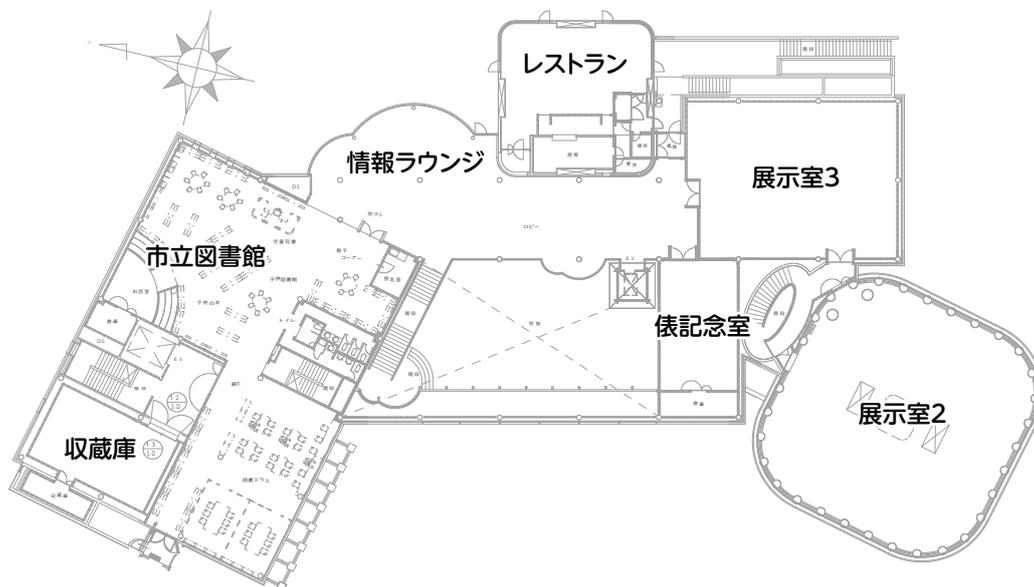
【開館当時】

フロア名称		機能・展示物
2階	展示室2	常設展示「たたらシアター（鉄の科学）」
		【展示物】 キャラクターロボット、たたら製鉄疑似体験コンテンツ
	展示室3	常設展示「ひらかれる鉄の道（安来市と鉄の関わり）」
		【展示内容】 鉄の流通、刃物生産、ハガネの町安来とヤスキハガネ、日本刀とその製作工程
		【模型】 鉄間屋、安来港の変遷、角炉、電気炉
		・映像コンテンツ（VHS）
		「たたら絵巻玉鋼縁起」
	「ヤスキハガネ」	
	企画展示室	企画展示
	レストラン	レストラン「ミュージーゼ」
情報ラウンジ	休憩スペース（安来港と十神山を展望）	
俵記念室	常設展示「俵国一博士の研究資料」	
	【展示物】 俵国一博士の研究資料など	
図書資料室	たたら製鉄関係の図書室	
研修室	貸出施設	
	・会議などに利用	
収蔵庫	収蔵施設	
	・各種資料を収蔵	



**【現在】** **新** は、新規。 **改** は、仕様の改変が行われたものです。

フロア名称		機能・展示物
2階	展示室2	<b>新</b> 体験展示「たたらと日本刀の技・科学」 「明珍火箸」鉄の音色を楽しむ 「鉄穴流しの砂鉄」砂鉄の重さを感じる 「吹差鞆」吹差鞆で風を起こす 「砂鉄」砂鉄を顕微鏡で観察 「刀の下緒」下緒の結び方
		<b>新</b> ・映像コンテンツ (DVD) 「日本刀の作り方」
		<b>新</b> ・パネル展示 「たたら製鉄の概要」
		<b>新</b> 常設展示「金屋子神信仰」 「金屋子神図」など
		<b>新</b> 企画展示 たたら製鉄と安来に関わる企画展を開催 製鉄、鍛冶、鋳物、刀剣、木工、美術工芸など
		常設展示「ひらかれる鉄の道 (安来市と鉄の関わり)」 【展示内容】鉄の流通、刃物生産、ハガネの町安来とヤスキハガネ、日本刀とその製作工程 【模 型】鉄間屋、安来港の変遷、角炉、電気炉
		<b>新</b> 「刀装具」拵、鐔
		<b>改</b> ・映像コンテンツ (DVD) 「たたら絵巻玉鋼縁起」 「ヤスキハガネ」 「たたら製鉄」
		<b>新</b> 体験展示 「日本刀と玉鋼」重さを実感
		企画展示室→俵記念室
	レストラン	<b>改</b> 休止
	情報ラウンジ	休憩スペース (安来港と十神山を展望)
	俵記念室	<b>改</b> 市立図書館に改修
	図書資料室	<b>改</b> 市立図書館に改修
	研修室	<b>改</b> 市立図書館に改修
	収蔵庫	<b>改</b> 収蔵施設 ・各種資料を収蔵 ・市立図書館改修によりスペースを削減

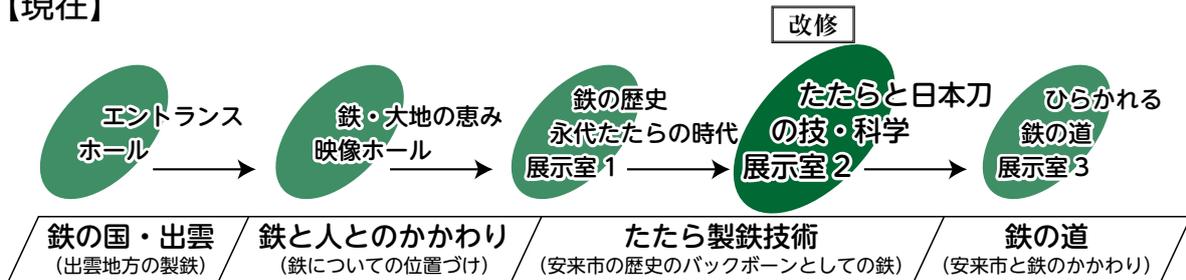


## ケ 展示構成

### 【開館当時】



### 【現在】



## コ 事業内容

収集	購入、寄附
保存	資料の整理、保存
	資料の台帳作成 (データベース化)
	刀剣関係文書の修復
調査研究	古代大刀の復元制作
	考古資料の科学的分析
	日本刀の科学的研究
	俄国一博士資料の調査研究 (大鍛冶・砂鉄)
	鉄の積出港安来の調査研究
展示	金屋子神信仰の基礎的研究
	常設展
教育普及	企画展
	公開講座
	古代たたら復元操業
	出前授業
	やすぎ刃物まつり・刃物鋼シンポジウム
	図録などの刊行
	たたら資料室の公開 (図書資料の公開)
友の会	
情報発信	ホームページの公開

## サ 関係諸機関

行政	鉄の道文化圏推進協議会（安来市、雲南市、奥出雲町）と鉄の文化館
	文化庁（日本遺産）
	島根県教育委員会文化財課
教育機関	市内小中高等学校
	島根大学 （材料エネルギー学部、次世代たたら協創センター（NEXTA）ほか）
	松江工業高等専門学校
	山口県立宇部工業高等学校
たたら	日刀保たたら
	公益財団法人日本美術刀剣保存協会
	鉄の歴史村地域振興事業団
	中国地方たたら懇話会
	伯耆国たたら顕彰会
	国営備北丘陵公園
	備中国新見庄たたら伝承会
日本遺産	日本遺産活用プロジェクトチーム会議
	構成文化財関係者（金屋子神社、安来節保存会など）
	たたらガイドの会
産業	株式会社プロテリアル
	株式会社プロテリアル安来製作所
学会	たたら研究会
	日本鉄鋼協会
	日本博物館協会
博物館	しまねミュージアム協議会
文化	金屋子神社
	安来市文化協会
観光・旅行・宿泊	安来市観光協会
	島根県観光連盟
	中海・宍道湖・大山圏域観光局（DMO）
	山陰インバウンド機構（DMO）
	旅行会社（（株）安来旅行、（株）伯太観光ほか）
	宿泊施設
地域	安来小路暮らし相談室
メディア	地元メディア

## (8) 和鋼博物館の現状と課題

### ア 現状

和鋼博物館が抱える課題を明確にするため、改善が必要と思われる事項と強み（特徴）を、①～⑩の項目に分類しました。

#### 凡例

△…改善が必要と思われる事項

◎…強み（特徴）

#### ① 展示

##### 方向性

- △展示手法の更新が十分ではない（映像、デジタル技術、体験展示など）
- △内容の要点が伝わりにくい（玉鋼・日本刀の優れた点、鉄の流通経路、安来港の重要性など）
- △グラフや数字、図の表現が少なく、文章から規模がイメージしにくい
- △鉄やたたら製鉄の「将来性・今後の可能性」が展示から感じられない
- △たたら製鉄の歴史・文化・科学・技術があって現在があること、それを将来に引き継いでいくことの重要性が感じられない
- △歴史、産業に偏った展示となっている
- △金屋子神話民俗館の閉館、日本遺産の認定、鉄鋼関連の職業の人材不足など、近年の和鋼博物館を取り巻く状況に応じた、展示の見直しが出来ていない
- △展示室1の情報が多過ぎる（点数、配置、文字数など）
- △展望ラウンジから一望できる中海の景色を活用し切れていない
- △建物の意匠、見所のアピールが不足している
- △子供向けの展示の工夫が少ない
- ◎「民謡とハガネの町」と言われる安来において、「ハガネの町」の象徴的文化施設である
- ◎たたら製鉄に向き合い続けてきた77年の歴史がある（前身の和鋼記念館 昭和21（1946）年開館）
- ◎技術や民俗だけでなく総合的にたたら製鉄を語る博物館である
- ◎収蔵資料が多い（1万点以上）
- ◎国指定重要有形民俗文化財たたら製鉄用具250点を所蔵している
- ◎たたら製鉄や日本刀の研究者俵国一博士の資料を所蔵している
- ◎たたら製鉄の歴史や文化を伝える、たたら絵巻「玉鋼縁起」を所蔵している
- ◎刀剣関係文書約800点を所蔵している
- ◎山陰で日本刀を常設展示している施設としては指折りである（日本刀90振所蔵）
- ◎前室には、古代の刀の復元品がある
- ◎展示室1の永代たたらが和鋼博物館の特色を良く出している
- ◎展示室1に復元模型やシーン模型等、新規制作すると高価なものが潤沢にある
- ◎地元の小中学校の郷土学習のツールとなっている（平成6（1994）年から）
- ◎鉄穴流し（砂鉄採取）の体験学習が子供にも大人にも人気である
- ◎日本刀は外国人からの人気が高い

## ② 資料収集

### 収集計画

△資料収集の方針が策定されていない

### 資料整理

△資料の整理整頓が、道半ばである

△館蔵資料の整理の計画が立てられていない

△収蔵品台帳の整備、データベース化、一般への公開が十分にできていない

## ③ 資料保存

### 保存環境

△温湿度環境が十分でない（空調の故障や未設置有）

△十分な作業・収蔵スペースがない

### 保存方法

△古文書資料など劣化の懸念される資料の保存状態が十分ではない（保存箱・汚損・防虫など）

### 図書資料

△図書資料の管理、保存におけるやすぎ図書館との連携が不足している

### 修復

△修復事業が少ない（古文書、美術工芸品、日本刀、SL など）

## ④ 調査研究

### 調査研究

△調査研究の計画が立てられていない

△研究の余地のある、貴重で重要な館蔵資料が多いが、調査研究に重点を置けていない

△教育機関や他の博物館と連携した調査研究が不足している

△調査研究の成果が、展示や教育普及に発展していない

△進展状況を踏まえた定期的な内外部への報告会（研究会）、定期的な報告書（研究紀要など）の刊行がされていない

△新たな研究成果などタイムリーな情報発信を行う機会、場所が少ない

△展示パネルの変更修正が行いにくい

## ⑤ 教育普及

### 活動の種類

△鉄を利用した大人向けワークショップが少ない（切出小刀、豆皿など）

△鉄の初歩である、砂鉄を知らない子供が安来にも多くいる

△科学的な体験学習が不足している（日本刀の斬れ味など）

△出前授業や出張コンテンツが不足している

△関係諸機関との重要な連携ツールである古代たたら復元操業などの活動強化ができていない

### 学習材

△常設展図録（総合案内）の更新が出来ていない

△子供用の図録がない（展示室内のワークシートのみ）

△たたらに興味を持った幅広い客層（初心者から研究者まで）が、和鋼博物館で学びを深め、情報を得るという環境づくりに改善の余地がある

## 連携

- △学校教育の支援が十分にできていない
- △友の会の活躍の場が少ない

## ⑥ 市民参加

### 市民参加

- △「市民活動が日常的に感じられる」仕掛けが少ない（展示解説ボランティア、市民研究員制度、展示スペースの提供など）
- △生涯学習の場として気軽に利用してもらえていない
- △たたら総合博物館としての役割は大切だが、地域住民、小、中、高校生の学びの場として、ハードルが高い

## ⑦ 外部との連携

### 教育機関

- △小中高校、高専、大学との連携が不足している

### 産業

- △プロテリアルとの連携が不足している

### 学会

- △学会との連携が不足している（日本鉄鋼協会など）

### 観光

- △サイクルツーリズム「安来ぶらりチャリ」との連携が十分ではない
- △観光、旅行、宿泊など本来親和性の高い機関との連携が出来ていない
- △ホスピタリティを備えた、旅の対応ができる人（コーディネーター、案内役）がいない
- △安来市、雲南市、奥出雲町の人材の行き来が少ない（地域を巻き込む現場のプレイヤーの不足）

### 日本遺産

- △市内の日本遺産ゆかりの場所や施設、もの、人との連携が十分ではない（安来の町並み、安来節、赤江新田、ト蔵新田、月山富田城など）
- △ゲートウェイ機能を持つ館との相互連携が不明瞭である
- ◎たたら文化は日本遺産に選ばれており、和鋼博物館は鉄の道文化圏（安来市、雲南市、奥出雲町）の中心的施設である

## ⑧ 情報発信

### 手法

- △情報発信が不十分である（所蔵資料情報、やすぎ刃物まつり、日本遺産など）
- △インバウンドに応じた情報発信が不足している
- △広報活動のマニュアルが未整備である
- △来館者アンケートが取られていない（年齢、性別、目的などの傾向が分からない）
- △HP、SNSなど様々な情報媒体の活用が不足している

## ⑨ 施設・設備

### 館外

- △国道9号の施設案内表示が分かりづらい
- △屋上や外壁、照明、看板、掲示板など、建築面の劣化が見られる
- △常設のたたら体験学習場がない（小学校授業用）
- △屋上、1階の外庭など、利用されていない場所がある
- ◎「八雲立つ出雲の山々」を表現した宮脇檀建築が魅力の一つである（灯台や山などをモチーフとしている）
- ◎建築を見に来る学生もいる（SNSでの発信）
- ◎駐車場の真ん中から見る建物のパノラマが綺麗である
- ◎主要道路に面している
- ◎JRの特急が止まる
- ◎空港へのアクセスが良い（米子空港、出雲空港）

### 館内設備

- △設備の故障、老朽化、耐用年数の超過などの問題を抱えている（空調設備、空気環境、照明、エレベーター）
- △展示機器の修理更新がしにくい
- △映像ホールの設備が整っていない（映像機器の故障、ネットワークの未整備、スクリーンのカビ、椅子が固く長時間座るのが困難、座席の幅が狭く窮屈など）
- △補修工作室の電源や防火設備が不足しており、本格的な工作体験ができない
- ◎秋、エントランスに西日が入ると綺麗である
- ◎個性的な内装が魅力的である（鉄鋼、伝統色を表現）

### レストラン

- △テナントが撤退した後、活用が十分にできていない

### ミュージアムショップ

- △営業終了時刻が早い（午後3時まで）
- △ミュージアムショップに、ここでしか買えないものやコラボ商品が少ない

### 図書館

- △やすぎ図書館との共同利用空間が少ない
- △やすぎ図書館との連携事業がない

### ユニバーサルデザイン

- △バリアフリーなど様々な人が利用しやすい環境の整備が十分ではない

### サービス

- △受付体制、券売機運用が十分に整っていない

### その他

- △展示室内に休憩用の椅子がない
- ◎足立美術館からの流れでの外国人観光客が来訪する（中国・台湾などアジア系が多い）

## ⑩ 運営

### 入館料

△和鋼博物館、歴史資料館、加納美術館の3館で、小中高校生の入館料の設定の考え方が異なっている

### 人員体制

△博物館活動の基盤となる調査研究よりも、日常の接客、展示解説、教育普及に業務の比重が置かれている

△業務分担が明確に区分けされていない。

### 研修

△学芸の専門的研修に十分に参加できていない

## イ 課題

ア 現状の結果を集約して、以下を和鋼博物館のかかえる課題とします。ア 現状と同様の①～⑩の項目に分類しました。

### ① 展示

#### 方向性

- ・見学者の理解を助け、誰にも分かりやすい展示
- ・ゾーニング、展示構成の見直し（テーマおよび展示点数・文字数などを含む）

### ② 資料収集

#### 収集計画

- ・計画的な資料収集の推進

#### 資料整理

- ・計画的な資料整理の推進
- ・資料台帳の整備、公開の推進（データベース化、デジタルアーカイブ化）

### ③ 資料保存

#### 保存環境

- ・保存環境の整備（空調設備、照明、作業・収蔵スペースなど）

#### 保存方法

- ・保存方法の改善（保存箱、防虫など）

#### 図書資料

- ・図書資料の管理、保存体制の改善

#### 修復

- ・修復事業の推進

### ④ 調査研究

#### 調査研究

- ・計画的な調査研究の実施
- ・関係機関と連携した調査研究の推進
- ・調査研究成果の展示、教育普及への還元
- ・調査研究成果の情報発信
- ・最新の調査研究や展示の更新がしやすい展示

### ⑤ 教育普及

#### 活動の種類

- ・大人向けワークショップの開発
- ・子供が鉄を初歩から学べる機会の創出
- ・出前授業の改善、出張コンテンツの検討
- ・古代たたら復元操業の活発化（教育普及、観光、宣伝）

### 学習材

- ・ 図録の更新
- ・ 対象者に応じた学習材の提供
- ・ 幅広い客層が情報取得する機会の創出

### 連携

- ・ 学校教育との連携の改善
- ・ 友の会活動の活性化（博物館活動の支援など）

## ⑥ 市民参加

### 市民参加

- ・ 市民が博物館活動に関わる機会の増進
- ・ 運営支援の開発（展示解説員、市民研究員、現場プレーヤー、観光コーディネーターなど）
- ・ 市民の利用しやすい博物館づくり

## ⑦ 外部との連携

### 教育機関

- ・ 教育機関との連携の推進

### 産業

- ・ （株）プロテリアルなど関係企業との連携の推進

### 学会

- ・ 学会との連携の推進

### 観光

- ・ 観光・旅行・宿泊の関係先との連携の推進

### 日本遺産

- ・ 日本遺産関係先との連携強化

## ⑧ 情報発信

### 手法

- ・ 所蔵資料や各種事業、館の基本情報など、目的、対象者に応じた情報発信の推進（ホームページの改良、デジタルアーカイブの作成、多言語対応など）
- ・ 様々な媒体を利用した情報発信

## ⑨ 施設・設備

### 館外

- ・ 館外設備の整備推進（屋上・外壁・看板・掲示板・照明など）
- ・ 館外の空間の環境改善、再活用

### 館内設備

- ・ 空調、照明など館内設備の修繕、更新
- ・ 各部屋の設備の改善、再活用

#### レストラン

- 新たな位置づけの検討

#### ミュージアムショップ

- ミュージアムショップと和鋼博物館の物販との連携・すみ分けの検討

#### 図書館

- やすぎ図書館との連携（滞在時間延長、次世代の担い手（子供）の育成のための共同講座運営や学校の授業受け入れなど）

#### ユニバーサルデザイン

- バリアフリー化

#### サービス

- 受付業務担当者の業務体制の改善（人的体制、券売機の活用、効率化）

#### その他

- 休憩スペースの見直し、分散化

### ⑩ 運営

#### 入館料

- 入館料設定の検討

#### 人員体制

- 人員配置、業務分担の改善

#### 研修

- 専門的な研修への参加

## (9) 今後強化する取組

展示改修を検討する前提として、博物館活動の現状と課題から今後強化する取組を整理しました。

### 展示改修事業の方向性

①展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実物資料だけでなく、映像、音声、模型、体験展示、デジタル技術などの手法を取り入れ、誰もが分かりやすい展示を推進する。</li> <li>・ 展示構成を見直し、従来の歴史、産業に加え、技と科学、信仰、文化の分野にも注目した展示を行い、たたら製鉄と安来の深い関わりを紹介する。</li> <li>・ 子供向け展示ゾーン「わこうラボ（仮称）」を新設し、鉄に親しむ機会を創出し、未来を担う子供たちの学びを促進する。</li> </ul>
-----	---

### その他の取組の方向性

②資料収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たたら製鉄やハガネに関する資料を計画的に収集する。</li> <li>・ 館蔵資料の整理を計画的に推進する。</li> <li>・ 資料台帳の整備を進め、広く公開する。</li> </ul>
③資料保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の傷みを予防するため、保存環境を改善し、貴重なたたら関連資料を次世代に伝える。</li> <li>・ 資料に応じた保存方法の改善を図る。</li> <li>・ やすぎ図書館と連携し、図書資料の管理、保存体制を整える。</li> <li>・ 資料の修復を推進する（古文書、美術工芸品、日本刀、SLなど）。</li> </ul>
④調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的に調査研究を実施する。</li> <li>・ 教育機関、博物館、研究機関など関係機関と連携した調査研究を推進する。</li> <li>・ 博物館活動の基盤である調査研究を推進し、資料の価値を明らかにし、その成果を展示、教育普及などの博物館活動に活用する。</li> <li>・ 調査研究の成果を展示や刊行物などで広く公開する。</li> </ul>
⑤教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者に応じた講演会や体験活動などを推進し、様々な人が気軽に学ぶことができる環境を整える。</li> <li>・ 図録やワークシート、ホームページなど、対象者に応じた学習材を作成、改良し、学習を支援する。</li> <li>・ 学校教育を積極的に支援し、館内外で地域の子供たちがたたら製鉄や地域の歴史文化に触れる機会を増進する。</li> <li>・ 友の会など関係機関と連携し、たたら製鉄に関心を持つ人が、博物館活動に関わり、学びを深め、交流する環境を改善する。</li> </ul>

⑥市民参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民が博物館活動に積極的に参加できる機会を増やし、市民参加の施設、市民と利用者の交流拠点の役割を果たす。</li> </ul>
⑦外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政、教育機関、たたら製鉄、産業、学会、博物館、文化、観光、旅行、宿泊、地域、メディアなど、関係する機関との相互連携体制を強化し、多くの人が関わり、交流し、活動できる博物館づくりを推進する。</li> </ul>
⑧情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もが自発的に情報の探求ができる学習拠点として、必要な情報を発信し、活動を支援する（ホームページ、多言語対応など）。</li> <li>・ ホームページ、SNS などを利用した情報発信を推進する。</li> </ul>
⑨施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内外の建築・設備の整備を推進する。</li> <li>・ レストラン施設の活用を推進する（多目的に利用できる飲食スペースなど）。</li> <li>・ ミュージアムショップの活用を推進する（魅力的なミュージアムグッズの検討）。</li> <li>・ やすぎ図書館との連携を推進する（利用者の滞在時間の延長、管理・事業の共同実施）。</li> <li>・ 年齢、身体の状態、使用言語などに関わらず、利用しやすい施設となるよう、環境整備を推進する。</li> </ul>
⑩運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正な入館料を検討する。</li> <li>・ 人員の適正な配置を進める。</li> <li>・ 職員の専門的な研修への参加を進める。</li> </ul>



図 1-36 金屋子神図（堀江有声作）

## 第 2 章

.....

### 展示改修基本構想

.....

## (1) 新和鋼博物館の基本理念

「感動！ 行動！ 和鋼博物館から始める たたら旅」

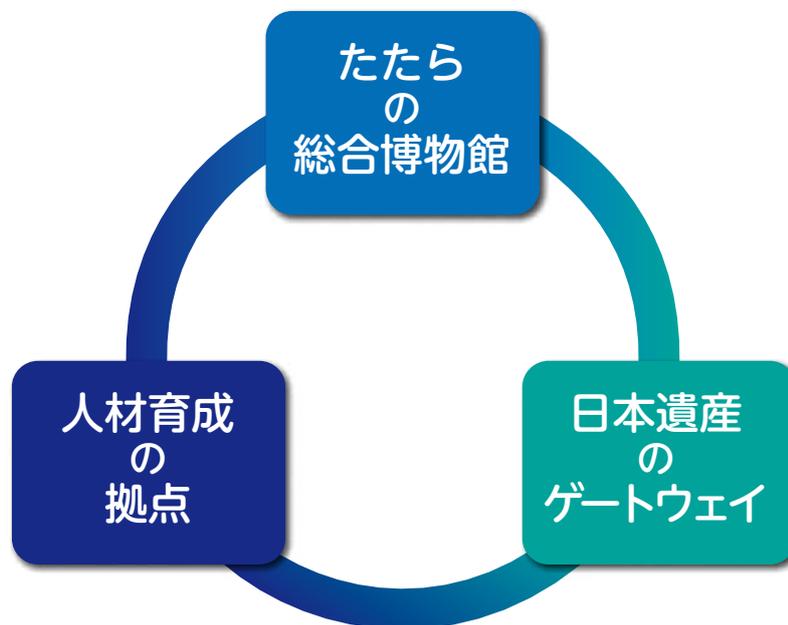
安来をはじめ山陰の歴史や文化、そして未来を語る上で欠くことのできない「たたら製鉄」。  
和鋼博物館は、たたら「知」が集積される“たたら総合博物館”。

たたらに込められたモノづくりの技と精神に触れ、それにより育まれた文化を体感することで、  
地域を探索する、学ぶ、働くなど、人々にあらゆる行動を巻き起こす。

さあ、和鋼博物館から、「たたらと交わる人生の旅」に、出かけよう！

## (2) 新和鋼博物館の果たすべき役割

以下の3つの役割をかかげて活動します。



## ● たたら総合博物館

前身の和鋼記念館の開館以来、たたら製鉄に向き合い続けて77年。国指定重要有形民俗文化財「たたら製鉄用具」250点や俵国一博士の研究資料をはじめ、1万点を超える所蔵資料は、たたら製鉄の実像を語る基準的資料として様々な活用されてきました。それらの資料の魅力を再発掘し、技術や産業だけでなく科学や信仰、文化、地域との関わりなど多様な側面から総合的にたたら製鉄を語る博物館としての役割を果たします。

## ● 人材育成の拠点

和鋼博物館は展示や教育普及などの博物館活動を通して、人々の学びの拠点となってきました。こうした機能を強化し、人材育成の拠点となります。

### ①働く人材の育成

山陰では、島根大学や鉄鋼関連企業などで、学術的また産業的にたたら製鉄と鉄鋼の調査研究が長く続けられ、この地域の大きな特色となっています。一方、和鋼博物館では、技や科学、信仰、文化、景観など、たたら製鉄と鉄鋼の様々な分野に触れることができ、学びの拠点という役割を果たしています。

和鋼博物館での学びをきっかけに、更に学びを深めてもらえるよう、産官学民の連携を活かして、将来の鉄鋼に関わる職業を担う人材の育成に寄与します。

### ②たたらを楽しむ人の支援

和鋼博物館は、たたら製鉄に関心のある、多くの人々と関わってきました。自らたたら操業をする、ペーパーナイフづくりに挑戦する、たたら製鉄をキーワードに地域学習をする、鉄の積出港の街並みを保存する、たたら製鉄をテーマに絵を描く、金屋子神話の演劇をする、たたら製鉄の映画を作る、などなど。

和鋼博物館は、たたら製鉄をキーワードに様々な活動をする人々を支援する拠点として、歩んでいきます。

## ● 日本遺産のゲートウェイ（出発点）

平成28（2016）年、安来市、雲南市、奥出雲町のたたら製鉄の文化遺産は「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」として、文化庁から日本遺産の認定を受けました。和鋼博物館は、日本遺産のストーリーを広く発信するとともに、2市1町のたたら文化遺産を巡る、文化観光の出発点としての役割を果たします。そのために、観光情報の提供をはじめとした、観光、滞在、宿泊の支援、多言語化、誰もが使いやすい環境作りなどに取り組みます。

### (3) 新たな展示の5本柱

上記の基本理念及び果たすべき役割を実現するために、新たな展示において、5本の柱を設定し、たたら製鉄とそれを由来とする文化遺産について理解促進を図ります。

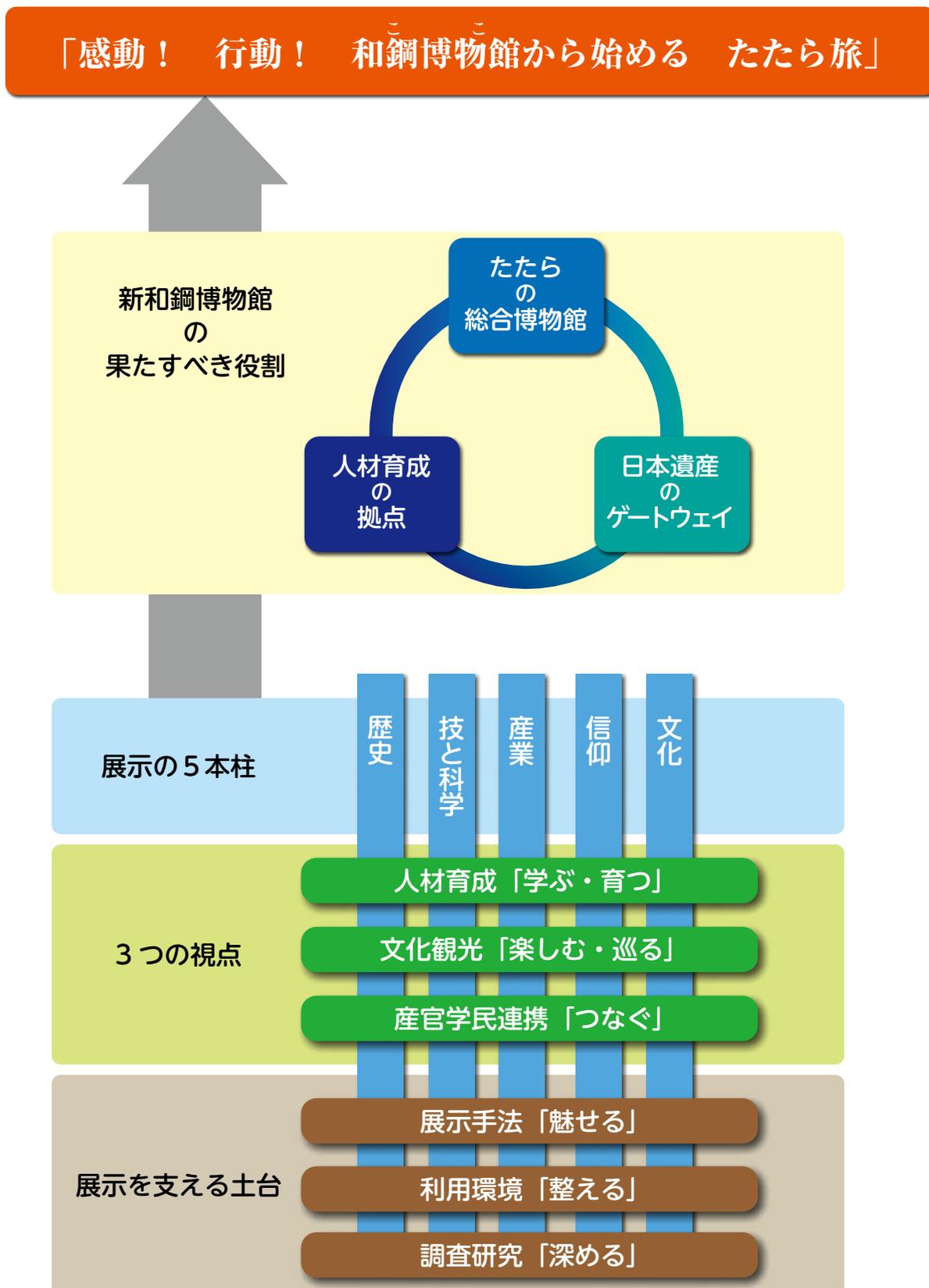


図 2-1 新たな展示の5本柱 イメージ図

## 1 展示の5本柱

### □歴史

たたら製鉄の歴史と概要の展示であり、展示の中核です。和鋼博物館には、前身の和鋼記念館時代から受け継いできた、たたら製鉄の現場で実際に使用していた製鉄用具をはじめ、冶金学者依国一博士の研究資料など、豊富なたたら製鉄関連資料があります。これらをもとに、たたら製鉄の始まりから現在までの歴史、そして、砂鉄や炭、鞆などのたたら製鉄を構成する要素、たたら製鉄の作業場所と設備、たたら操業とその製品など、たたら製鉄の概要を紹介します。

### □技と科学

古来のたたら製鉄と日本刀、そして現代の鉄鋼を構成する、原材料や製作方法など様々な事柄について、技と科学の視点を交えて紹介します。展示資料を見るだけでなく、持つ、動かす、重さを感じる、音色を味わうなど、様々な体験展示を通して、技と科学に対する好奇心を育みます。幅広い世代の方に、古来の伝統の技と現代の知恵である科学に触れ、関心を持ってもらうことで、理科離れ、鉄鋼関係の職業の担い手不足という社会課題の解決も図ります。

### □産業

明治後期、洋式製鉄が主流となり、たたら製鉄が衰退すると、出雲、伯耆地方のたたら経営者たちは製鉄業の近代組織化を図り、安来に鉄鋼会社を設立。たたら製鉄の伝統技術を近代製鋼技術へと発展させ、製品の高品質化に成功し、安来は高機能特殊鋼「ヤスキハガネ」を生産する町へと移り変わり、「ハガネの町」と称されるに至ります。現在の安来市の特徴を物語る、たたら製鉄がもたらした、安来の鉄鋼産業の歩みを紹介します。

### □信仰

古來たたら製鉄従事者たちが篤く信仰してきた「金屋子神」。出雲へ赴いた金屋子神は、人々に製鉄の技を伝えました。以来人々は、砂鉄を集め、炭を焼き、鉄をつくり、できた鉄を運ぶという、鉄づくりの暮らしの中で、金屋子神を祀り、その信仰は中国山地一帯へと広がりました。鉄づくりの様相が大きく変化した現代においても、その信仰は連綿と続いています。鉄づくりに関わる人々の心の拠り所である金屋子神について、その信仰の歴史、信仰の広がりなどを紹介します。

### □文化

江戸時代から昭和時代にかけて、たたら製鉄の経営者をはじめ、鉄の流通で賑わう安来港の鉄問屋、そして近代以降の安来の特殊鋼産業の経営者などは、この地域の経済を牽引するにとどまらず、文化振興にも貢献しました。彼らゆかりの場所、建築物、華やかな文物、伝統の祭礼、民謡安来節などを通して、たたら製鉄に由来する豊かな文化を伝え、たたら製鉄による経済的な繁栄が、文化の発展をももたらしたことを紹介します。

## 2 3つの視点

### □人材育成「学ぶ・育つ」

展示活動を通して、技と科学の面白さに触れて興味を抱いてもらうきっかけをつくります。そして、鉄鋼関連の職業を担う人材の育成と、広くたたら製鉄をキーワードに様々な活動をする人々の支援、養成をします。

キャリア教育は安来市の未来を育むものであり、また郷土愛の醸成に直結します。この地域で生きていくことをよりポジティブな印象に変え、地域の担い手の育成につながる展示を目指します。

### □文化観光「楽しむ・巡る」

鉄の道文化圏の中核施設として、たたら製鉄とたたら製鉄に由来する文化遺産の魅力を伝えるとともに、安来の町並みや金屋子神社、棚田の景観（奥出雲町）、菅谷たたら山内（雲南市）など、たたら製鉄ゆかりの各所への周遊を促します。たたら製鉄ゆかりの地域全体で、住民や来訪者に、見学や体験などを通してたたら製鉄の文化への理解を深め、楽しんでもらうことを目指します。

### □産官学民連携「つなぐ」

産業、行政、教育、民間など様々な関係先とつながり、展示改修を推進し、多様な人々の学習に役立てられるように努めます。また、当面の展示改修の完了後にも、常設展の更なる更新における企業及び研究者の協力や、市民に展示解説員として博物館活動の担い手になってもらうなど、様々な人々との関わり合いを重視して、展示活動を推進していきます。

## 3 展示を支える土台

### □展示手法「魅せる」

資料の特徴がよく伝わり、誰にとっても利用しやすく分かりやすい、魅せる展示を目指します。

- デジタル技術の活用
- 映像・情報機器の活用
- ユニバーサル対応（障がい者、高齢者、子供連れ、外国人旅行者など）
- 体験展示（見るだけでなく、頭と体を使って学び感じる展示）

### □利用環境「整える」

和鋼博物館は立地環境として、図書館との複合施設、文化振興の拠点（安来市文化協会の活動、市民による展示・普及活動）、観光施設、人々が集い交わり楽しみくつろぐ場所など、多様な性格を持ち合わせています。飲み物を飲みながら休憩したり、図書館の本を持ち込んで読書したりするなど、多目的に利用できる施設として活用を図ります。

### □調査研究「深める」

博物館活動の基盤であるたたら製鉄及び関連資料の調査研究活動の成果を、展示活動に活かし、広く公開します。

## 第 3 章

.....

### 展示改修基本計画

.....



## (1) 展示計画

### ア 展示の基本的な考え

新和鋼博物館は、かけがえのない地域の財産である「たたら製鉄」をテーマとし、たたら製鉄とたたら製鉄を由来とする文化遺産を活動の対象とし、その魅力を国内外に情報発信する施設です。

一方では、「歴史・技と科学・産業・信仰・文化」という幅広い視点から、市民や来館者に魅力を伝え、将来の鉄鋼関係の職業の担い手を育成していく必要があります。

展示構成は、初心者から研究者まで誰もが親しみやすいようテーマごとの展示（テーマ展示）とし、大人から子供までが楽しく学ぶことができる施設を目指します。

#### テーマ展示の考え

本書では、以下の展示配置を「テーマ展示」と位置づけます。

- ①展示構成の区画は、テーマに準じて設ける
- ②決まった順路を設けず、来館者が自由に気になったものから見学できる

### イ 展示解説の考え

- 大人から子供まで分かりやすい展示を目指し、解説キャプションは中学生が理解できることを指標とします。また、解説（パネル、グラフィック）では、分かりやすい文言やフォント、大きさ、文字数、総ルビの記載を心がけます
- 訪日外国人や在住外国人向けに解説を多言語化し、世界に開かれた博物館を目指します
- 図表や模式図・イラストを用いて来館者の理解を促進します
- 小学生や初めてたたら製鉄に触れる人、もっと詳しく知りたい人など、対象者に応じた展示解説や学習材（ワークシートなど）作りを行います
- ガイドによる展示説明においては、外部人材の活用も図っていきます

## ウ 展示構成

新たな展示の5本柱に基づき、各スペースを次のとおり構成します。

### テーマ

- 前室 ..... 1. たたらとの出会い
- 展示室1 ..... 2. たたらを知る
- 展示室2 ..... 3. 技と科学
- 展示室3 ..... 4. たたらと安来の関わり
- 現儀記念室 ..... 5. たたらがもたらした文化
- 2階ロビー ..... 6. たたらの国・出雲（日本遺産）
- 展望ラウンジ ..... 7. たたらの港町

### そのほか

1F	エントランスホール	【新】 こども向けスペース わこうラボ
		【新】 和鋼博物館の建築と意匠
		天秤鞆を体験
	ミュージアムショップ	刃物製品の販売
	たたら資料室	図書資料の公開
	映像ホール	たたらの映像、貸出施設
	市民ギャラリー	展示、貸出施設
	旧体験学習室	安来市文化協会事務局
2F	補修工作室	体験学習、貸出施設
	屋外	屋外展示など
	旧レストラン	多目的スペース

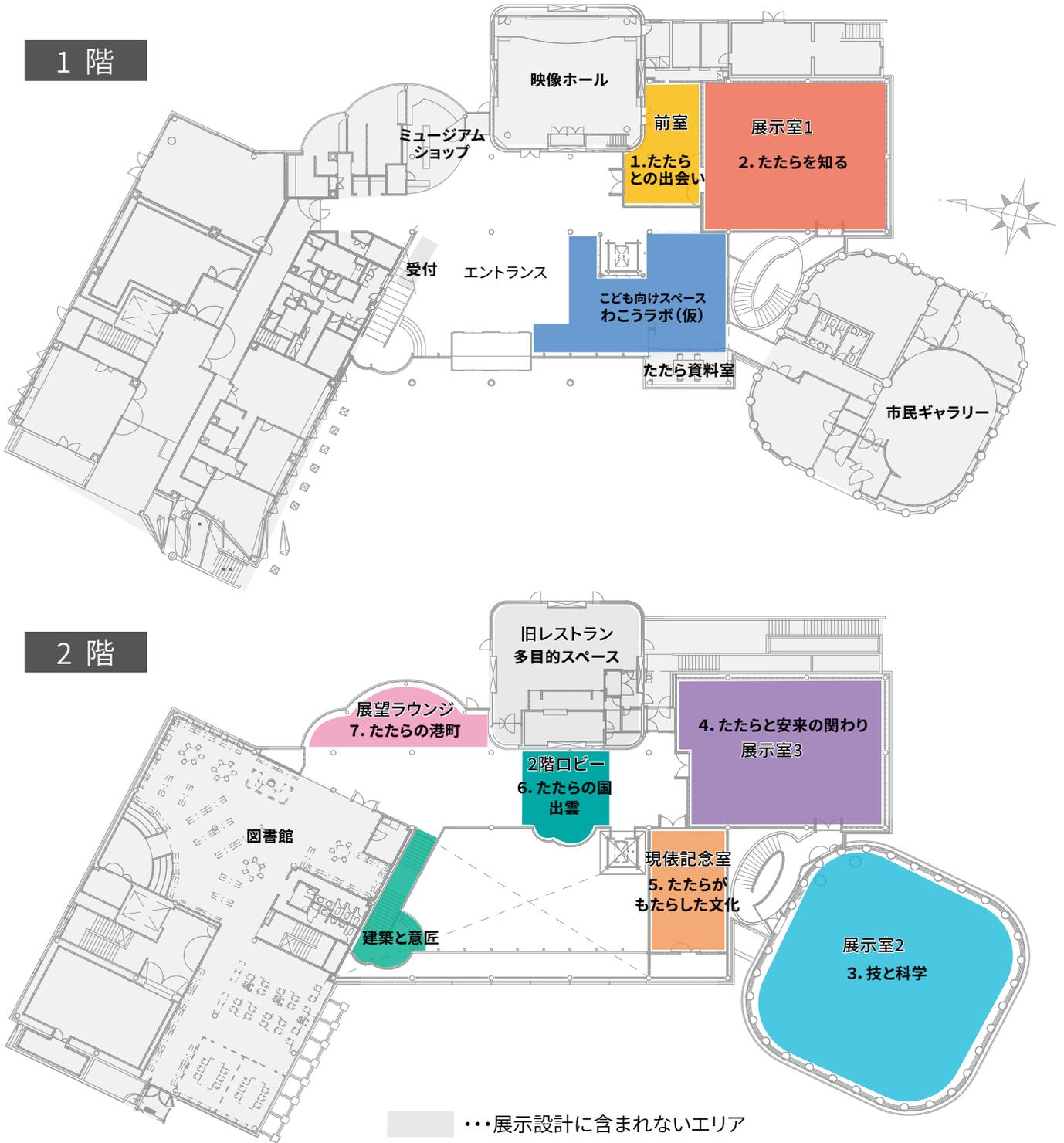


図 3-1 展示構成

## 1. たたらとの出会い

## 前室

導入として、和鋼博物館のテーマである、出雲地域の特徴を伝える個性豊かな文化遺産たたら製鉄と和鋼について、来館者にイメージ（情景）を伝える。

象徴的な展示資料（玉鋼、たたら操業風景写真、たたら製鉄の文化）を通して、たたら製鉄のイメージ（たたら情景、祭り、芸能、食、町並み、たたらが作った景観）を紹介する。

また、祈りや習俗を紹介することで、たたら製鉄に従事する人々の暮らしの中に息づくたたら製鉄を感じてもらう。

博物館の展示室という非日常の空間の始まりにあたって、詳細な情報よりも印象や気づきを重視し、たたら製鉄の世界に初めて触れる方にも入り込みやすい構成とする。また、前室に使用した題材は、ほかの展示室で解説を行い、イメージと知識との結び付けや学習の強化を図る。

### 展示構成

① たたら の 情景	展示内容 たたら製鉄のイメージ（情景） （たたらって、こんな感じなんだ！という印象付け）
	主な展示資料 玉鋼、錬鉄、たたら操業風景写真、たたら製鉄の文化（展示パネル） たたら製鉄のイメージ映像など
② たたら 従事 者の 祈り	展示内容 たたら製鉄従事者の祈りと暮らし
	主な展示資料 金屋子神図、信仰圏図パネル、生活の分かる資料



図 3-2 玉鋼



図 3-4 金屋子神図(堀江有声作)



図 3-3 たたら操業の様子 (靖国たたら)



図 3-5 金屋子神社勸進帳

## 2. たたらを知る

## 展示室1

たたら製鉄の歴史と概要は、和鋼博物館の顔となる、展示の中核である。

たたら製鉄の始まりから現在までの歴史、たたら製鉄を構成する要素、作業場所と設備、操業とその製品など、たたら製鉄の概要を紹介する。

展示物は、最も重要な所蔵資料であるたたら製鉄用具を中心とした豊富なたたら製鉄資料や、たたら製鉄の各場面を伝える模型資料、映像資料などで構成する。

現在の展示を基本的に踏襲しつつ、たたら製鉄を構成する砂鉄や炭などの要素を一同に揃えることで、たたら操業の流れを来館者により分かりやすくする。

また、鉄生産の変遷を伝えストーリー性を持たせる、重要な要素であるたたら経営者「鉄師」を強調するなど、これまでの展示に要素を加えて改良を行う。

一方で、取り扱う内容が非常に多くなるため、展示物の量を調整するとともに、補助解説などの学習材の拡充、映像や音響、模型などの展示手法の再検討により、雑多さを軽減した分かりやすい展示となるよう努める。

### 展示構成

① たたら の 歴史	展示内容 古代から現代までの鉄生産の変遷（たたら製鉄が成立する近世期が中心）
	主な展示資料 古代製鉄作業模型、出雲国風土記、たたら <small>の</small> 炉と天秤轆
② 資源、 設備、 道具 を支える	展示内容 砂鉄、たたら炭、従事者の集落「山内」 <sup>さんない</sup> 、地下構造「床釣り」、作業建屋「高殿」
	主な展示資料 砂鉄、鉄穴流し絵図（鉄山記）、たたら製鉄用具（砂鉄採取）、鉄穴流し模型、たたら炭、たたら製鉄用具（炭焼）、山内図、高殿模型、地下構造模型
③ たたら 操業	展示内容 築炉から操業、釜壊し、鉬出し <sup>けら</sup> 、選鋼、大鍛冶までのたたら操業の概要
	主な展示資料 たたら製鉄用具（築炉、操業、選鋼、大鍛冶）、鉬、銅、玉鋼、錬鉄



図 3-6 古代製鉄作業模型



図 3-7 たたら炉と天秤輔



図 3-8 鉄穴流し作業模型



図 3-9 炭だち



図 3-10 鋳 (けら)



図 3-11 高殿模型

### 3. 技と科学

### 展示室2

古来のたたら製鉄と日本刀、そして現代の鉄鋼を構成する、原材料や製作方法など様々な事柄を技と科学の視点を交えて紹介する。

原材料の特徴、道具の使用方法、作業の工程、たたら炉の状況、製鋼など、その役割や仕組みを、俵国一博士の研究資料やヤスキハガネ資料を活用しながら、資料と補助解説（映像、図解）、什器など展示手法の再検討を行い、来館者に分かりやすく伝える。

また、展示資料を見るだけでなく、持つ、動かす、重さを感じる、音色を味わうなど、様々な体験を通して、技と科学に対する好奇心を育み、学びを促す。

現在実施している「日本刀を持つ体験」は、特に人気が高いことから、写真撮影ブースの設置や新たな展示手法を検討し、更なる磨き上げを図る。

幅広い世代の方に、古来の伝統の技と現代の知恵である科学に触れ、関心を持ってもらうことで、鉄鋼に関わる職業の担い手不足や理科離れという社会課題の解決も図る。

また、本展示室は大規模な企画展の会場としても使用するため、展示物は可動式とする。

#### 展示構成

① たたら の 技 と 科学	展示内容 たたら製鉄に関わる技と科学（砂鉄、鉄穴流し、製鉄、鞆など）
	主な展示資料 砂鉄、鉄穴流し資料、吹差鞆、踏鞆、鋤、玉鋼、銚、体験展示資料
② 日本刀 の 技 と 科学	展示内容 日本刀の特徴、歴史、原材料と制作方法、技と科学（構造、火造り、焼き入れなど）
	主な展示資料 日本刀、古代大刀、西洋刀、玉鋼、和鉄、作刀工程資料、科学的資料（構造図、顕微鏡写真など）、作刀風景模型、体験展示資料
③ 暮らし の 鉄 製 品 の 技 と 科学	展示内容 鉄の音色、鉋かけ、建築を支える和釘
	主な展示資料 明珍火箸、鉋と鉋くず、和釘、体験展示資料
④ ハガ ネ の 技 と 科学	展示内容 ヤスキハガネの製造方法と優れた機能
	主な展示資料 ヤスキハガネ製品、合金鉄、旋盤加工



図 3-12 吹差轆



図 3-13 日本刀制作工程資料



図 3-14 日本刀の科学的研究資料



図 3-15 日本刀体験風景



図 3-16 鉈



図 3-17 和釘

## 4. たたらと安来の関わり

## 展示室3

たたら製鉄は、鉄生産の技術というだけでなく、非常に裾野の広い産業であり、この地域の特徴を物語る個性豊かな文化遺産である。ここでは、安来を事例に、特に産業という点から、たたら製鉄と地域との深い関わりを紹介する。

本展示は、たたら製鉄は安来市と非常に関わりが深く、町を特徴付けてきた産業であることを伝える、重要な役割を持つ。「ハガネの町安来」の成り立ちを伝え、郷土への関心や愛着を育む。

ここでは主に、近世期における山間部での鉄生産、その鉄製品の流通、近代以降の特殊鋼生産を紹介する。

飯梨川、伯太川筋の鉄生産と流通については、布部家島家、布部浜田家に伝わる古文書などの研究成果を反映させ、その実像を伝える。

たたら製鉄の時代も、また現代においても、安来から全国へと鉄が運ばれ、暮らしと社会を支えたことを紹介することで、地元の方には、安来が社会に果たしてきた役割とその重要性を改めて感じていただき、遠来の方には、鉄を通じた自分と安来との繋がりを感じていただく。

「ハガネの町安来」コーナーでは、現況からの更新が必要な展示が多いことから、展示製作においては、(株)プロテリアル 安来工場と密に連携する。

### 展示構成

① 鉄の積出港 安来	展示内容 安来の鉄生産、山間部から港への鉄の運搬、鉄の集散地として賑わう安来、安来から送られた鉄の流れ、暮らしを支えた鉄製品
	主な展示資料 布部家島家資料、布部浜田家文書、母里山本家文書、鉄運搬資料(サンドカケ、アブハライなど)、天秤秤と分銅、鉄問屋模型、山陰道商工便覧、こも包み、農具、大工道具、建築用具
② ハガネの町 安来	展示内容 ハガネの町安来の始まり、たたら近代化、社会を支えるヤスキハガネ
	主な展示資料 雲伯鉄鋼合資会社資料(鍊鉄、帳簿類、取扱商品一覧)、安来鉄鋼合資会社資料(帳簿類)、十神炉模型、電気炉模型、海綿鉄、角炉模型、木炭銚、ヤスキハガネ製品
③ 未だに繋いだ人々 たたらとハガネを	展示内容 松浦弥太郎(安来で鉄鋼生産を始めた、ハガネの町安来の立役者) 鮎川義介(大正末期の不況から安来の特殊鋼産業を再興した経営者) 俵国一(たたらと日本刀の科学的研究に大きな足跡を残した冶金学者)
	主な展示資料 雲伯鉄鋼合資会社資料、信仰関係資料(金屋子神図)、ヤスキハガネ製品、俵博士研究資料、書「禄有其中」、御進講資料、俵博士著書



図 3-18 鉄問屋模型

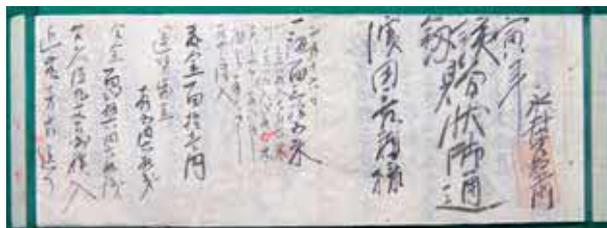


図 3-19 和鉄取引関係文書（浜田家文書）



図 3-20 和鉄運搬用木箱



図 3-21 雲伯鉄鋼合資会社資料



図 3-22 角炉模型



図 3-23 打刃物（ヤスキハガネ製）

## 5. たたらがもたらした文化

現儀記念室

本展示では、たたら製鉄に由来する文化や芸術を伝え、たたら製鉄の経済的な繁栄が、豊かな文化をももたらしたことを紹介する。

たたら製鉄で栄えたたたら経営者や鉄問屋などの、ゆかりの場所とその建築物、華やかな文物、伝統の祭礼などを紹介する。また、安来に伝わる美術工芸品や安来節などを紹介する。

本展示を通して、たたら経営者ゆかりの展示施設などへの周遊も促す。

たたら製鉄がもたらした文化という点は、日本遺産の展示とも重複するため、棲み分けや表示方法を十分に検討する。

環境整備面では、美術工芸品の展示に必要な設備、道具を整備する。

また、本展示室は小規模な企画展の会場としても使用する。

### 展示構成

<p>展示内容</p> <p>たたら経営者・鉄問屋、祭礼、美術工芸品、民謡安来節</p>
<p>主な展示資料</p> <p>たたら経営者・鉄問屋などの紹介パネル、彫刻（米原雲海）、陶器（河井寛次郎）、絵画（横山大観、木村栖雲）、漆工（大谷歆到）、金工、安来節紹介パネル</p>



図 3-24 竹取翁 (米原雲海作)



図 3-25 三色碗 (河井寛次郎作)



図 3-26 葡萄絵大皿 (錦山焼)



図 3-27 山水図 (山岡米華、横山大観作)



図 3-28 富岳清暎図 (木村栖雲作)



図 3-29 有職文様蒔絵菓子器 (大谷歎到作)



図 3-30 牧童図蒔絵香合 (高橋孝道作)



図 3-31 民謡安来節

## 6. たたらの国 出雲

2階ロビー

たたら製鉄は、伝統技術そして産業という面にとどまらず、信仰、祭り、芸能、食、町並み、景観など、私たちの暮らしの様々な面に影響を与え続けている。ここでは、地域の特徴を語る優れた文化遺産としてのたたら製鉄を紹介する。

日本遺産「出雲國たたら風土記」のゲートウェイ（出発点）として、日本遺産のストーリーとその構成文化財、日本遺産を楽しむコンテンツを紹介。2市1町の文化遺産の周遊を促し、文化観光の拠点としての役割を果たす。



### 展示構成

<p>展示内容</p> <p>日本遺産「出雲國たたら風土記」</p>
<p>主な展示資料</p> <p>2市1町圏域図、各構成文化財情報、日本遺産を楽しむコンテンツ情報、映像「出雲國たたら風土記」、観光情報</p>



図 3-32 菅谷たたら山内



図 3-33 玉鋼製造（たたら吹き）



図 3-34 たたら製鉄用具 250 点



図 3-35 金屋子神社



図 3-36 奥出雲たたら製鉄及び  
棚田の文化的景観



図 3-37 民謡安来節

## 7. たたらの港

## 展望ラウンジ

十神山と安来港を一望し、江戸時代から明治時代にかけて鉄を運ぶ船が盛んに行き交った中海の情景を味わう。展示物は置かず、ガラス面への鳥瞰図表示などを行う。

### 展示構成

展示内容 鉄を運ぶ船が盛んに行き交った中海の情景
主な展示資料 中海と安来港のイメージ図



図 3-38 安来港と十神山

## そのほか

### ◎こども向けスペース わこうラボ (仮)

エントランスホール

小さなこどもたちも鉄を身近に体感することのできる展示空間を新設する。遊びながら鉄に関わる不思議を体感し、鉄と科学に対する好奇心を育む。見るだけでなく、持つ、触る、動かす、並べる、探す、のぞく、色を見る、聞くなど、頭と体を使って、鉄の世界を体感する。

こどもが自ら行動できる展示によって、自分ならではの気づきと感動を生み出す。知識や理論の学習は必ずしも重視せず、体感し、面白さ、楽しさを味わいながら学習することで、更なる行動を生み出す空間を目指す。

また、たたら製鉄や和鋼に関するトピックを設けることで、常設展示室の簡単な概要解説としての機能も付加する。

#### 展示内容

- 「わこうってなあに」…たたら製鉄や和鋼について、俵国一博士と学習する
- 「てつをつくろう」…鉄のつくりかたや加工方法を学習する
- 「てつをさがそう」…鉄製品を今昔の暮らしから発見する
- 「てつをさわろう」…鉄をはじめとした金属の多様さを目視や触察などで体感する

#### 主な展示資料

体験展示資料 (今後調整を進める)

### ◎天秤鞆を体験

エントランスホール

本物の天秤鞆を踏んで、たたら操業を体験する。実際にふいごを踏むことを通して、たたら操業という労働の厳しさ過酷さを来館者に伝える。動画や写真の撮影に適した背景や小物の設置を行い、SNSなどの情報発信の拡大を図る。

#### 展示内容

たたらの送風機「天秤鞆」

#### 主な展示資料

天秤鞆



図 3-39 体験用天秤鞆

◎和鋼博物館の建築と意匠

エントランスホール 1-2階階段

灯台や山、八重垣などをモチーフに「八雲立つ出雲の山々」をテーマにした和鋼博物館の建築の特徴と見どころを紹介する。八重垣をモチーフにした柱、高殿の形状を再現したたたら棟、日本の伝統色を表わしたタイル、鋼管を思わせる手すり、八雲立つ出雲国にちなんだ雲形サインなど、建築家宮脇檀まゆみによるたたら製鉄のデザインに触れていただく。

展示内容 建築家宮脇檀による和鋼博物館の建築と意匠
主な展示資料 和鋼博物館建物模型、意匠解説



図 3-40 和鋼博物館建物模型

◎ミュージアムショップ

エントランスホール

継続して、ヤスキハガネ製刃物販売所（テナント）を設置する。用途に応じた刃物製品を、豊富な品揃えの中から選べる。販売員の助言を得られるので、不慣れな方でも安心して買い物ができる。

◎たたら資料室

たたら資料室

継続して、図書資料の閲覧室を設置する。受付で申請を行い、閲覧可能となる。

データベース化や図書館との連携を進め、広く利用に供する。

◎たたら映像

映像ホール

展示の導入として、和鋼博物館の展示概要を紹介する映像を上映する（団体客を想定）。

また、講演会などの会場として使用するとともに、貸出スペースとして広くご利用いただく。

## ◎貸出施設

市民ギャラリー

展示会や会議などに利用できる貸出スペース。

和鋼博物館を文化振興に資する拠点としていっそう活用するため、令和5年から、それまで安来市観光交流プラザを拠点としていた安来市文化協会との連携により、下記のとおり施設利用を推進している。

- ・市内に点在する歴史・文化・観光施設等への「窓口」としての役割を果たす。
- ・郷土文化を紹介する場として、地域間交流の拠点としての役割を果たす。
- ・広く市民が文化等を通じて交流する場としてのサロンの機能を目指す。

## ◎安来市文化協会事務局

旧体験学習室

令和5年から安来市文化協会が事務局として利用している。市民ギャラリーを展示会場として、各種展示事業、普及活動を行い、安来の文化振興を図っている。

## ◎体験学習

補修工作室

鉄づくり、鍛冶、研磨、木工など、鉄に関わる工作や実験などの体験学習講座を行う。企画、実施にあたっては、関係する博物館や教育機関などと連携する。

学習に必要な設備・道具類を整備する。

また、貸出スペースとして広くご利用いただく。

## ◎屋外展示など

屋外

「屋外展示」SLや鋸などの展示を継続して行う。

「体験学習」「古代たたら復元操業」、こども向け「鉄穴流し体験学習」などを実施する。

「屋上」安来港を一望できるロケーションは活用の余地がある。常時開放することは、安全面また管理上難しいため、機会を限り、イベントなどに活用する。

## ◎多目的スペース

旧レストラン

飲食、休憩、学習、交流などに利用できる多目的複合スペース。

和鋼博物館、やすぎ図書館両方の施設を訪れる方が利用でき、十神山と安来港を眺めながら、くつろぎのひとつを過ごせるよう、新たに飲食の自販機を設置する。

## (2) 管理運営計画

### ア 管理運営形態

昭和15(1940)年に現(株)プロテリアル 安来工場によって和鋼記念館の設立が構想され、安来町(当時)関係者や俵国一博士、たたら関係者など、多くの方々の協力が基盤となり、たたら製鉄に関する資料が収集され、施設設備が整い、長く運営されてきました。

安来市が和鋼記念館の業績を引き継ぎ、平成5(1993)年に和鋼博物館が開館して以降、所蔵資料の大部分は、(株)プロテリアル 安来工場から借用しているもので、その外は、和鋼記念館時代以来たたら関係者などから寄託していただいているもの、市民をはじめ関係の方々からご寄贈いただいたものです。

これらは、たたら製鉄の実像を伝える、外に比肩するもののない貴重な資料です。これらの資料を適切に保存して後世に伝えるとともに、展示をはじめとした博物館活動に有効に活用することによって、市民及び利用者が地域の文化遺産に誇りと愛着を持ち、文化の継承、発展へと繋げることが大切です。たたら製鉄と70年にわたり向き合い、関係の方々のご協力のもと果たしてきたこの役割を、和鋼博物館はこれからも続けていきます。

こうした経緯をふまえ、和鋼博物館は安来市が直営方式で管理運営します。

### イ 組織体制

管理運営は安来市教育委員会文化課が行います。

所蔵資料の保存と活用を基に博物館活動を行うため、学芸員が中心となり、管理運営します。

博物館活動の推進のため、教育機関や博物館、学会、観光、地域団体、友の会などの関係諸機関と協力、連携します。

所管 安来市教育委員会文化課

運営体制 館長、学芸員、特別研究員、事務員

## ウ 開館時間・休館日

開館時間 9時～17時（最終入館は16時30分）

休館日 水曜日（水曜日が祝日の場合はその翌日）、12月29日～1月3日

## エ 入館料

第1章（9）「今後強化する取組」に挙げているように、適正な入館料を検討します。

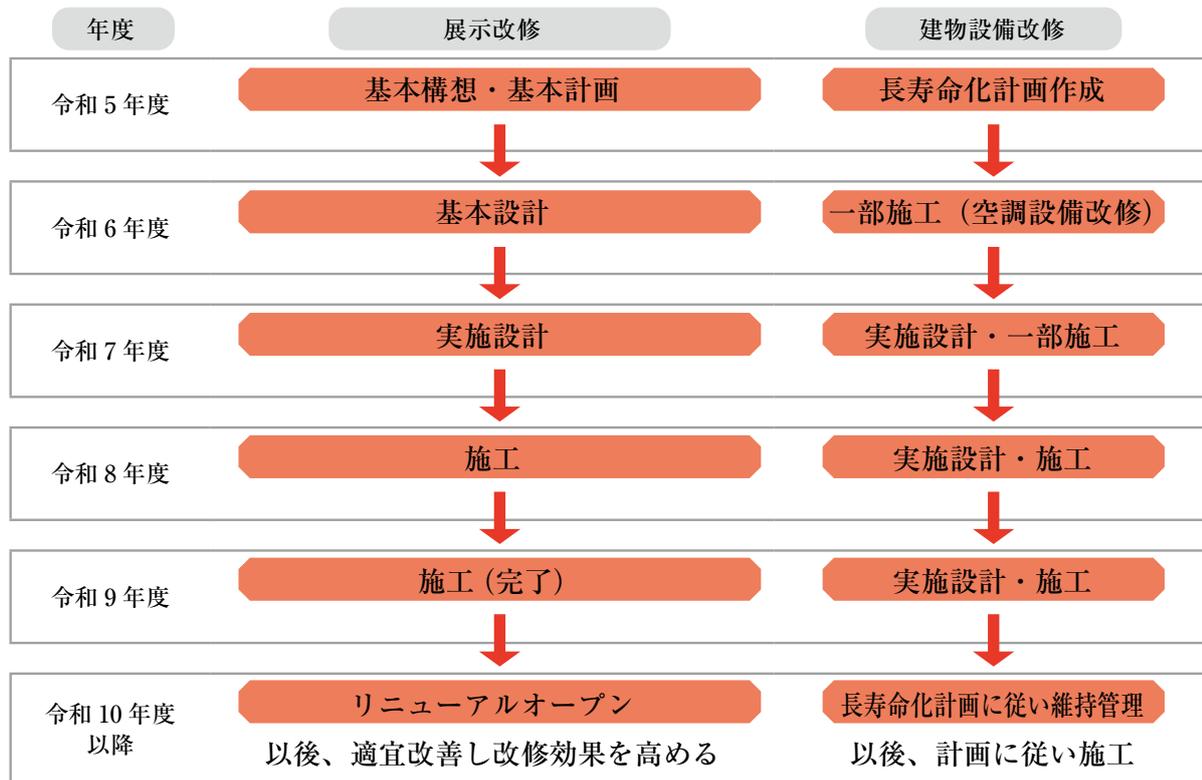
現行

区分	個人	20人以上の団体
一般	310円	260円
高校生	210円	150円
中学生以下	無料	無料

### (3) 事業推進計画

#### 整備スケジュール

令和9（2027）年度の展示改修（展示製作）完了を目指し、令和5（2023）年度に基本構想・基本計画を策定、令和6（2024）年度に基本設計を策定、令和7（2025）年度に実施設計を策定する予定です。



## 参考資料 基本構想・基本計画取りまとめの流れ

和鋼博物館展示改修基本構想・基本計画の策定に向け、有識者による「和鋼博物館活用検討会議」を設置し、安来市教育委員会文化課を事務局として、検討を重ねた。

### (1) 和鋼博物館活用検討会議設置要綱

令和5年6月29日  
教育委員会告示第8号

#### (設置)

第1条 和鋼博物館（以下「博物館」という。）の展示及び建物設備の改修に当たり、適切な運営及び活用について検討し、安来市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に意見を述べることを目的として、安来市和鋼博物館活用検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2条 検討会議は、教育委員会の求めに応じ、次に掲げる事項について意見を述べるものとする。

- (1) 博物館の現状と課題に関すること。
- (2) 博物館の展示及び建物設備の改修に関すること。
- (3) その他教育委員会が必要と認めること。

#### (組織)

第3条 検討会議は、委員15人以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験のある者、博物館及び展示に関する専門的知識を有する者又は市民のうちから、教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は、委嘱の日から博物館の建物設備の改修が完了するまでとする。

#### (会長及び副会長)

第4条 検討会議に会長1人及び副会長1人を置き、委員のうちから互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、検討会議を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

#### (会議)

第5条 検討会議の会議（以下「会議」という。）は、会長又は教育委員会が招集し、会長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

#### (関係者の出席)

第6条 検討会議は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見を聴くことができる。

#### (事務局)

第7条 検討会議の事務は、教育委員会事務局において処理する。

#### (その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、検討会議に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

#### 附 則

この告示は、令和5年7月1日から施行する。

(2) 和鋼博物館活用検討会議委員名簿

	氏名	所属・職名など	分野
会長	角田 徳幸	雲南市教育委員会文化財課課長	学識経験者
副会長	烏谷 智文	松江工業高等専門学校教授	学識経験者
	荒川 優司	和鋼博物館館長	学識経験者
	大森 拓土	島根県立美術館専門学芸員	学識経験者
	鬼村 修治	出雲科学館館長	学識経験者
	門脇 修二	観光プロモーター 総務省地域力創造アドバイザー	学識経験者 観光振興関係者
	陶山 節恵	和鋼博物館友の会幹事	社会教育関係者
	高尾 康弘	安来市教育委員会 学校教育課社会教育主事	学校教育関係者 社会教育関係者
	森戸 茂一	島根大学材料エネルギー学部教授	学識経験者
	山本 康二	(株) プロテリアル 安来工場 総務部総務グループ(庶務)課長	学識経験者

(敬称略・50音順)

(3) 和鋼博物館活用検討会議開催状況

令和5年度

回	日時	内容
第1回	10月20日(金)	・事業説明 ・館内視察 ・基本構想(素案)の検討 現状、課題など
第2回	11月29日(水)	・基本構想・基本計画(素案)の検討 基本理念、果たすべき役割、展示構成など
第3回	1月25日(木)	・基本構想・基本計画(素案)の検討 展示構成、展示の5本柱など
第4回	2月22日(木)	・基本構想・基本計画(案)の確認

## 施設の現況写真



01 エントランスホール



02 エントランスホール



03 エントランスホール (体験用天秤輪)



04 エントランスホール (日本遺産コーナー)



05 エントランスホール (映像コーナー)



06 たたら資料室



07 ミュージアムショップ



08 市民ギャラリー



09 映像ホール



10 前室入口



11 前室



12 展示室 1



13 展示室 1



14 展示室 1



15 展示室 1



16 展示室 1



17 補修工作室



18 展示室 2 (常設展風景)



19 展示室 2 (常設展風景)



20 展示室 2 (企画展風景)



21 展示室 2 (企画展風景)



22 展示室 3



23 展示室 3



24 展示室 3



25 展示室 3



26 俵記念室



27 俵記念室



28 2階ロビー



29 2階ロビー



30 情報ラウンジ (展望ラウンジ)



31 情報ラウンジ (展望ラウンジ)



32 旧レストラン



和鋼博物館展示改修基本構想・基本計画

安来市教育委員会  
令和6年3月26日

〒692-8686  
島根県安来市安来町878-2  
安来市教育委員会文化課  
電話 0854-23-3186  
FAX0854-23-3168